

2011(平成23)年度
後期
事業報告書

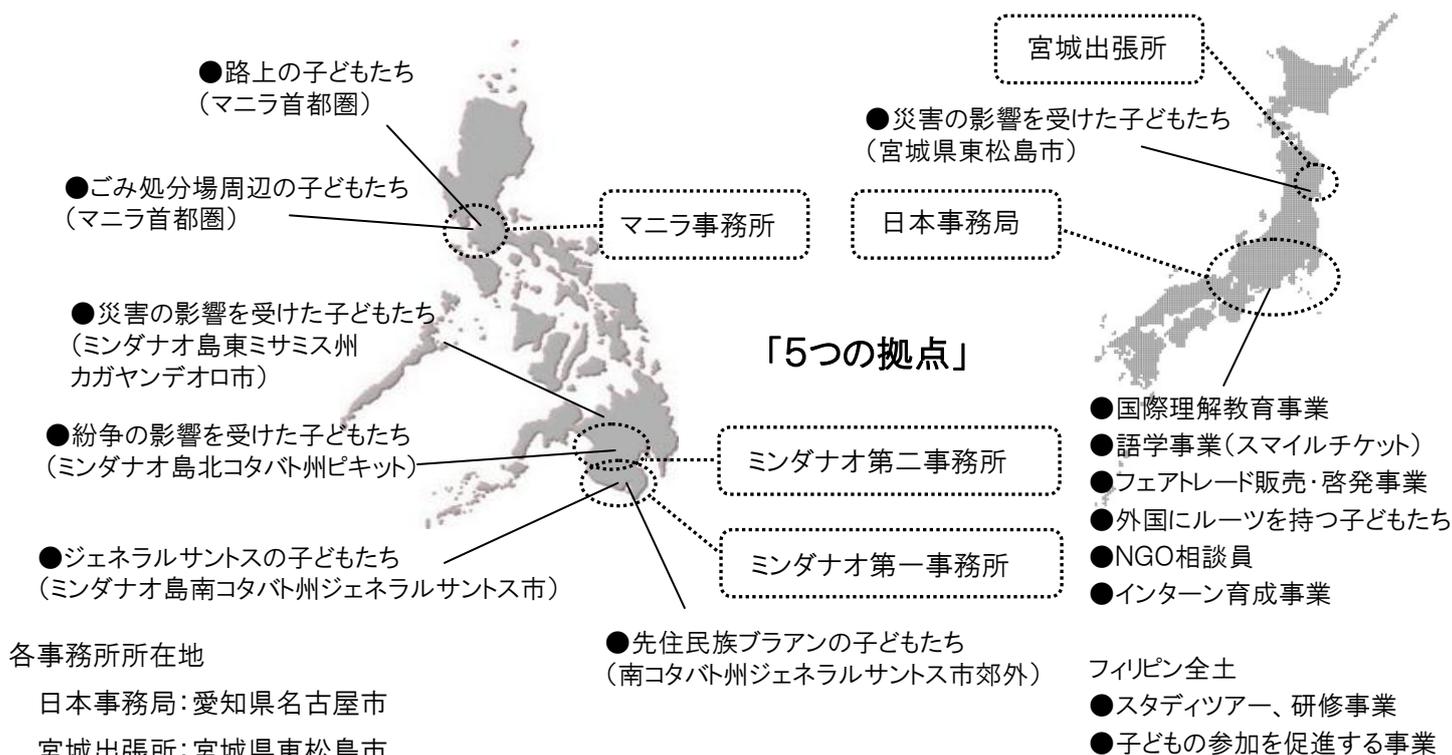
2011年5月1日～2012年4月30日

認定NPO法人 アジア日本相互交流センター

INTERNATIONAL CHILDREN'S
ACTION NETWORK

Not "for" the People, but 'with' the People

アイキャン事業地及び担当事務所分布図



アイキャンの行動規範
Not 'for' the People, but 'with' the People
 人々の「ために」ではなく、人々と「ともに」

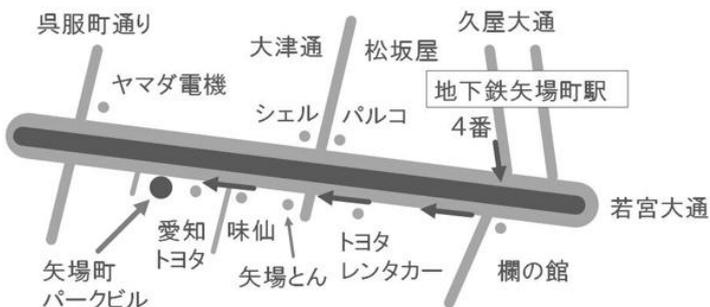
認定NPO法人 アジア日本相互交流センター・ICAN(アイキャン)

設立: 1994年4月1日
 郵便番号: 460-0011
 住所: 愛知県名古屋市中区大須3丁目5-4
 矢場町パークビル9階
 電話番号&FAX: 052-253-7299
 Eメールアドレス: info@ican.or.jp
 ホームページ: <http://www.ican.or.jp>
 郵便振替: 00850-6-78233

【代表理事】
 田口京子 養護学校教諭

【理事】
 雨森孝悦 日本福祉大学教授、日本NPO学会理事、(特活)シャプラニール監事
 鈴木真帆 会員
 高畑 幸 静岡県立大学国際関係学部准教授、文学博士
 宮脇聡史 大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻講師 文学博士

【監事】
 龍田成人 名古屋NGOセンター副理事長、工学博士
 林 俊彰 税理士



運営上の重点

重点目標1:会員・寄付者、協力者の増加:より多くの人「できること」によって成り立つ団体へと成長します。

⇒震災に関する寄付者数は増加したものの、震災への対応に追われ、十分に会員の方々への報告やコミュニケーションをとることができず、会員数は減少してしまいました。次年度への最優先課題として、目標を持ち越すことにします。

重点目標2:管理体制の強化:管理職の増加を含め、管理体制の全体的な見直し、強化を行います。

⇒日本事務局内に事業部と総務部それぞれに部長職が出来、管理体制の強化を達成することができました。業務分担が進んだことで、資源を重点分野へ集中することができるようになりました。

メディア掲載

日付	媒体名	題名	内容
7月 20日	中日新聞	「NGOが被災地へ 途上国支援の経験生かす」	震災復興活動
7月 22日	読売新聞	「被災時に文具と図書 聖カピタニオ女子校生送る」	震災復興活動
9月 6日	中日新聞	「被災地支援の活動報告」	震災復興活動
11月 5日	Minda News	Japan allots P24-M for Pikit peace-building project	平和構築活動
11月 5日	まにら新聞	平和構築事業に5千万円「日本政府が無償資金協力」	平和構築活動
11月 12日	Manila Bulletin	Japan okays P24-M school project	平和構築活動
11月 25日	静岡新聞	「浜松・フィリピン児童絵画交流 浜松南LCが市役所で展示会」	絵を通じた交流
11月 27日	毎日新聞	「『女性の力になりたい』フェアトレード貿易の生産者 比のビーナさん講演」	フェアトレード
12月 4日	中日新聞	「フェアトレード 理解を フィリピンの現状 生産者語る」	フェアトレード
12月 30日	信州新聞	「買い物通じた途上国支援を フィリピンの生産者が来飯」	フェアトレード
12月 23日	読売新聞	「比の学校建設 支援35000枚 書き損じはがき NPO『アイキャン』現地教育省が表彰」	学校建設
1月 13日	中日新聞	「はがき1枚が給食に」	書き損じはがき
1月 15日	読売新聞	「絵手紙 広がる輪 フィリピン・日本の中高生1300人」	絵を通じた交流
1月 19日	朝日新聞	「比の子、日本思う絵手紙」	絵を通じた交流
1月 20日	中日新聞	「助け合い 絵手紙で感じて 緑区日比の子ども作品展」	絵を通じた交流

参加ネットワーク

ネットワーク・団体名	所属・担当	詳細
(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)	正会員	全国規模のネットワーク型NGO
(特活)名古屋NGOセンター	正会員	中部地域のネットワーク型NGO
児童労働ネットワーク	正会員	児童労働解消を目的としたネットワーク
「動く→動かす」	正会員	ミレニアム開発目標達成のためのNGOネットワーク
NGOと企業の連携推進ネットワーク	正会員	NGOと企業の連携を推進する全国ネットワーク
多文化共生リソースセンター東海	正会員	東海地域の多文化共生を促進するネットワーク
中部ESD拠点協議会	参加団体	中部地域のESDを促進するネットワーク
National Council of Social Development Foundation	正会員	フィリピンの社会開発のための組織のネットワーク

委託事業・助成事業・大口寄付によるパートナー

団体・機関名	事業名・事業内容
委託事業によるパートナー	
外務省 (2010年5月～2013年3月)	外務省NGO相談員(2年目):中部地域におけるNGOに関する相談窓口
外務省 (2010年6月～2012年3月)	外務省NGOインターンプログラム(2年目):開発事業に携わるプロジェクトマネージャーの育成
(独)国際協力機構(JICA)草の根技術協力 (2011年4月～2013年3月)	パヤタス地区における地域型保健および生計向上フォローアップ事業(1年目):ごみ処分場における協同組合強化等
(独)国際協力機構(JICA)草の根技術協力 (2011年4月～2016年3月)	路上の子どもたちによる子どもの権利をまもるプロジェクト(1年目):マニラの路上の子どもたちの生活向上
(学)栗本学園 名古屋国際中学校・高校 (2011年7月)	国際理解研修(1年目):貧困問題の学習と将来のキャリア形成を目的とした高校生の海外研修の現地コーディネート
(国立)広島大学生物学部 (2011年8月)	フィリピン研修(1年目):住民参加による海洋管理等の学習を目的とした大学生の海外研修の現地コーディネート
中部電力株式会社 (2011年11月～2012年3月)	フィリピン子どもたちと東日本大震災被災地の子どもたちを“みどり”でつなぐ活動(1年目):植林とボランティア活動等
助成事業によるパートナー	
郵便事業株式会社 (2009年4月～2013年3月)	市民ボランティアによる外国にルーツを持つ子どもへの教育事業(3年目):学校プリントの日本語翻訳等
公益信託 愛・地球博開催地地域社会貢献基金 (2011年4月～2012年3月)	「東海フェアトレードフォーラム'11」の開催(1年目):フェアトレードを広めるための啓発活動
中央共同募金会(赤い羽根)第一次 (2011年4月)	被災した子どものレクリエーション、避難所向け食糧の提供
三菱商事株式会社 (2011年6月～2012年3月)	宮城県東松島市における緊急救援及び復興等
中央共同募金会(赤い羽根)第二次 (2011年6月～12月)	宮城県東松島市および石巻市で被災した青少年と住民の生活復興事業:救援物資の提供と避難所の運営等
中央共同募金会(赤い羽根)第三次 (2011年9月～12月)	宮城県東松島市被災民の生活復興および石巻市・東松島市における教育環境の改善活動:仮設住宅の運営等
外務省NGO連携無償 (2011年11月～2012年11月) ※最大3年間	ミンダナオ島紛争地ピキットにおける教育を通じた平和構築事業(1年目):紛争地における平和構築
立正佼成会 一食平和基金 (2012年1月～2012年6月)	ミンダナオ島先住民族ブアンの子どもたちの教育・環境事業:学校建設や環境教育等
外務省NGO連携無償 (2012年3月～2013年3月) ※最大3年間	フィリピンミンダナオ島先住民族の子どもたちの地域開発プロジェクト(1年目):学校建設や児童会の強化等
株式会社LUSHジャパン (2012年4月～2013年3月)	宮城県東松島市「子どもの参加」による復興促進事業:被災地域における子ども新聞の作成等

大口寄付によるパートナー	
(特活)国際協力NGOセンター(JANIC) サポート募金(2009年5月～)	フィリピンの子どもたちの教育や保健の活動
環境省家電エコポイント事務局 (2010年5月～2012年4月)	フィリピン最大のごみ処分場におけるリサイクルを通じた収入向上事業:リサイクルによるフェアトレードの促進
環境省住宅エコポイント事務局 (2010年5月～2012年4月)	フィリピン最大のごみ処分場におけるリサイクルを通じた収入向上事業:リサイクルによるフェアトレードの促進
ミニストップ株式会社 (2010年12月～2012年3月)	フェアトレードマップの作成及びフェアトレードフォーラムの開催(2年目)
SHOM:在フィリピン各国大使夫人の会 (2011年3月～2012年3月)	Educational Assistance Project of “Children in Crisis” in Mindanao:ミンダナオの子どもへの奨学金提供等
真如苑及び株式会社一如社(名古屋NGOセンターを通じた寄付)(2011年4月～2012年3月)	「子ども議会'11」の開催
地球愛まつり京都実行委員会 (2011年5月～)	団体の運営や活動全体に対する寄付
きふね幼稚園 (2011年6月～)	団体の運営や活動全体に対する寄付
(学)南山中学・高校女子部生徒会 (2011年7月～)	東日本大震災の被災者及び教育機関に対する救援物資の提供等
(学)名古屋経済大学高蔵高等学校 (2011年7月～)	東日本大震災の被災者及び教育機関に対する救援物資の提供等
(学)聖カピタニオ女子高等学校 (2011年9月～)	東日本大震災の被災者及び教育機関に対する救援物資の提供等
(学)愛知江南学園 誠信高等学校 (2011年11月～)	東日本大震災の被災者及び教育機関に対する救援物資の提供等
(特活)名古屋NGOセンター中部NGO応援募金 (2011年12月～)	東日本大震災やフィリピンの子どもの活動
第30青年経営者研究会(青経塾) (2012年1月～2012年5月)	先住民族の村での学校建設活動
天理教国際助け合いネット (2012年1月～)	ミンダナオ島台風災害に対する緊急救援及び復興活動
神野産業株式会社 (2012年1月～2012年5月)	先住民族の村での学校建設活動
安藤運輸株式会社 (2012年1月～2012年5月)	先住民族の村での学校建設活動
E.O.P. (2012年3月～)	団体の運営や活動全体に対する寄付
有限会社安部アソシエーツ (2012年4月～)	団体の運営や活動全体に対する寄付

1、危機的状況にある子どもたちと「ともに」おこなうプログラム



A、ジェネラルサントスの子どもたち(1994年～)

(1) 事業背景

ミンダナオ島の南部に位置するジェネラルサントス市は、人口54万人、世帯数11万の地方都市です。ツナやパイナップル等の魚産物・農産物が収穫できますが、その豊かな自然の恵みを享受しているのは、大農場や工場を持つ富裕層に限られています。雇用機会も十分でない中、経済的理由から子どもたちを公立学校にさえ送ることが難しい家庭も少なくありません。アイキャンは、同市の経済的に困難な家庭環境の子どもたちが、通学を継続できるよう、現在までに約150名の通学補助を行ってきました。

(2) 特記事項

家庭内の虐待被害にあった子どものケースに対して、政府機関と協働して対応し、子どもの安全の場の確保に努めました。家庭訪問を繰り返し、通学できる環境を整えました。

(3) 実施事務所

ミンダナオ第1事務所(ジェネラルサントス市)

(4) 実績

1) 通学補助(学用品や通学経費等の提供)

2011年度は38名(高校生37名、大学生1名)の子どもたちの通学補助をおこないました。制服、学用品、かばん、靴などを支給し、通年で学費、通学交通費、教材費、卒業経費を提供することで、子どもたちの勉学に最低限必要なものを整え、安心して勉強に取り組める環境を作りました。高校生10名が無事卒業の日を迎え、内ミンダナオ州立大学に進学した2名に、引き続き学用品や通学経費を提供しました。

2) 緊急補助

病気やケガ等で入院する奨学生に医療補助を行っていますが、今期は幸いにも対象者が出ませんでした。

3) 勉強会の開催

来季に奨学生同士の勉強会を開催するにあたり、今期奨学生の組織化を進めました。

4) カウンセリング・相談

スタッフが年間を通して、家庭・学校訪問を行い、子どもの成績や学習態度、家庭環境についてカウンセリングをおこなうとともに、保護者や担任の教師と密に連絡をとりながらモニタリングを行いました。また事務所においても、子どもが抱えている問題など、奨学生や保護者の相談を随時受けました。

5) 「子ども集会」の開催

6月に「子ども集会」を開催し、奨学生や保護者とともに1年のスケジュールを確認し、卒業生や成績優秀者のお祝いをしました。

6) 成長記録の発送と手紙やカードでの交流

6月と12月に、全奨学生の写真と成長記録、手作りカードを日本のパートナーさんへ、また、卒業した子どもたちのパートナーさんへお礼の手紙を送りました。年間で日本のパートナーさんからの郵便14通を子どもたちに届けました。

(5) 新年度の展望

奨学生の面談の時間を増やすとともに、奨学生同士の勉強会の機会を提供することで、子どもたちの通学に関する悩みを解決し、確実に勉強を継続できるようにします。



B. 紛争の影響を受けた子どもたち(2006年～)

(1) 事業背景

ミンダナオ島北コタバト州ピキット周辺では、長年続いてきた紛争の影響で約60%の住民が住みなれた土地を追われ、学校等社会インフラが荒廃し、人々の生活基盤が崩壊しました。国軍と反政府軍との衝突のみならず、親戚関係にあるグループ(氏)の土地をめぐる争いや、犯罪組織も活発で事態は複雑です。これに対し、アイキャンは、2006年よりピキットの学校校舎の建築や学用品の提供、地域での平和活動を実施してきました。

(2) 特記事項

ピキット北部マリダガオ川周辺の7つの村の各地において、平和教育を積極的に促進する学校「平和の学校」をつくる3年計画の1年目が開始し、今期は特に、その中心地であるティストウラン村での活動に注力しました。日本人、フィリピン人ともに担当職員が増え、これまでに比べ規模を拡大して実施できたことで、教育環境整備や平和活動のインパクトを高めることができました。

(3) 実施事務所

ミンダナオ第2事務所(コタバト市)とマニラ事務所

(4) 実績

1) 教育環境整備

ピキット町北東部7つの村の中心に位置するティストウラン村の高校、スルタン・メモリアル高校において、6月に就学困難な生徒たち70名分の学用品を提供いたしました。また2月以降、同校6教室の校舎の建築を開始し、今期中に基礎工事が終了、柱を立ち上げるところまで完了しました。

2) 平和教育活動

① 「平和の学校(School of Peace)」準備活動

ティストウラン村の小中学生57名、ティストウラン、バラティカン、ヌグアン、バラバックの4村の地域リーダー延べ74名に「平和の学校」の基礎研修を行いました。

② 「平和の学校(School of Peace)」研修

ティストウラン村の小学生延べ186名、同中学生204名、7つの村の小中学校教師延べ69名、ティストウラン村地域リーダー15名に、ティストウランの学校が「平和の学校」になるための研修を提供しました。

子どもを対象とした研修では、兄妹や親子、友だちとの対立など身近な紛争・対立を例にあげ、先生や村のリーダーには、これまでに起きた紛争や村の中で起きている対立関係を事例にして、実践的に対立解消方法を考える機会を提供する研修を行いました。教師を対象にした研修では、紛争で心理的な問題を抱えた子どもたちに、どのように対応すればよいかについて、話し合いました。

3) 「ミンダナオ子ども議会」

ミンダナオの様々な民族の子どもが将来のミンダナオについて話し合う「ミンダナオ子ども議会」を来期実施するにあたり、今期その準備と会場選定を行いました。

(5) 新年度の展望

2012年度は、ティストウラン村の周辺に位置するバラバック、ヌグアン、バラティカンの3つの村を中心に活動を行い、計6つの学校で平和教育活動を展開していきます。また同地区の高校1校で新規3教室の建設、小学校1校で新規2教室の建設、小学校2校で老朽化した校舎の修復を行い、ミンダナオの平和を促進します。



事業費 18,426,159円

C、路上の子どもたち(2006年～)

(1) 事業背景

フィリピンでは、約25万人の子どもたちが路上での生活を余儀なくされています。子どもたちは物乞いや、物売り、廃品回収業、性産業等により生計を立て、様々な危険のなか暮しています。空腹を紛らわせるためにシンナーを吸引し、身を守るためにギャングの一員となる場合もあります。アイキャンは、路上の子どもたちが特に多いマニラ首都圏の5ヶ所において子どもの権利である「育つ権利」「参加する権利」「生きる権利」「守られる権利」が守られた環境を作るために、活動を行ってきました。

(2) 特記事項

今期、5ヶ年計画が開始し、今までの活動に加え、代替教育制度(ALS)、通学補助、家族への権利研修、バラングイ(最少行政単位)との協働など新たな取り組みを始めました。

(3) 実施事務所

マニラ事務所

(4) 実績

1) 「育つ権利」を守る活動

① 路上教育活動

5事業地の子どもたち約200名を対象に計56回、子どもの権利、道徳等をテーマに路上教育を行いました。

② 代替教育制度(ALS)の提供

フィリピン教育省の代替教育制度(ALS)に則った授業を、子どもたち約10名に計75回行いました。

③ 通学補助

18名の路上の子どもと施設に暮らす元路上の子ども

に、学費、学用品等の通学補助を行いました。

2) 「参加する権利」を推進する活動

① 職業訓練

約20名の青年とともにパン作り職業訓練を計49回、パン屋を開始するにあたり必要な協同組合登録にむけた勉強会を計32回行いました。また、出資金を貯める貯金活動(「子ども銀行」活動)も行いました。

3) 「生きる権利」を守る活動

① 緊急診療活動

病気やけがをした37名の子どもの治療に対応しました。

② 栄養改善活動

約200名の子どもに、236回給食活動を行いました。

③ 保健教育

5事業地の約200名に、計56回の保健教育を実施しました。病気・ケガの予防知識・方法、シンナー・タバコの危険性、性教育等をテーマに学びました。

4) 「守られる権利」を推進する活動

ソーシャルワーカーが、随時相談を受け付けました。

5) 子どもの権利についてのアドボカシー

① 家族への権利研修

親への研修を2回実施し、約40名が参加しました。

② バラングイ「子どもを守る委員会」の組織化

ケソン市の5つのバラングイと協働し、計9回「フィリピンの子どもに関する法律」や「路上の子どもたちとの対話」などの訓練・ワークショップを実施しました。

(5) 新年度の展望

路上での経験をもとにした演劇上演や路上新聞の配布を行い、路上の子どもに対する社会の意識を高めます。



D、先住民族ブラアンの子どもたち(1996年～)

(1) 事業背景

ミンダナオ島ジェネラルサントス市郊外の村に住む先住民族ブラアンは、独自の文化・慣習を持ち、山岳地帯で畑作や炭焼きなどを生業としています。1970年代以降、深刻化した不法伐採や入植者による土地収奪により、農耕や採取を基盤とする自給自足の生活が困難となっており、日々の食事すら満足にできない家族も多くいます。この地域には医師が常駐していないため、簡単に治療できるはずの病気で命を落とす住民も多くいます。また、増加する子どもたちの数に対して、教室が不足しており、予算の限界のある教育省も対応が追いついていません。子どもたちの多くは、徒歩1～2時間の山道通学を強いられるうえ、空腹や経済的な理由で継続して通学することが困難な状態に置かれています。これに対し、アイキャンは地域の生活向上を目的として、教育や保健、環境等の活動を実施してきました。

(2) 特記事項

今期3年計画の1年目として、ブラアンの人々が多く住むサンホセ村において、小学校での児童会強化や教師研修、地域での保健研修や生計向上活動を開始し、包括的な活動によって、ブラアンの人々の生活向上を目指します。

(3) 実施事務所

ミンダナオ第1事務所(ジェネラルサントス市)

(4) 実績

1) 小学校校舎

雨漏りのする小屋で子どもたちが勉強していたピアオ小学校において、1棟2教室のコンクリート製の新校舎を建設しました。同様に校舎の不足していたシャトル小学校でも、

1棟1教室の木造校舎を建築、2つの村の子どもたち約180名が、適切な教育環境で授業を受けられるようになりました。

2) 保健教育

サンホセ村で保健教育活動を15回実施し、地域の人々述べ414名が参加しました。この地域で多くの子どもが抱える疾病の予防と対処方法、応急処置、基礎的な栄養学、指圧、伝統的なハーブ薬の活用法や適切な薬の服用方法等の講習を行いました。

3) 環境教育活動

サンホセ村の小学生述べ380名を対象に環境教育を行い環境保全の意識を向上させるとともに、300名以上の子どもたちと500本の木を植えました。

4) 児童会と教員の能力の強化

次年度に村の児童会と教員の能力の研修を行うにあたり、教育省との打ち合わせを行いました。

5) 生計向上活動

次年度に通年でハンディクラフト商品の制作による収入向上活動を実施するにあたり、研修参加予定者と村でミーティングを行いました。

(5) 新年度の展望

ブラアンの人々が多く住むサンホセ村において、引き続き小学校の校舎建設と子どもたちを取りまく教育環境および生活環境の向上を行うとともに、新たに小学校の児童会の強化や教師の能力向上の研修を開始します。また、サンホセ村以外の先住民族の人々が多い地域において、教育用品の提供等の活動を行います。



E、ごみ処分場周辺に住む子どもたち(1997年～)

(1) 事業背景

マニラ首都圏ケソン市郊外のパヤタス地区には、フィリピン最大のごみ処分場があります。約2,000名がこの処分場の資源を頼りに生計をたて、最低限の暮らしをしています。また、劣悪な環境により、住民は様々な健康被害を受けています。これに対して、アイキャンは、パヤタスB第2地区とその周辺の住民とともに保健と生計向上の活動を行ってきました。2009年には住民の協同組合(PICO)を設立し、2010年には、診療等の主な活動をその協同組合に移行しました。

(2) 特記事項

今期、2年計画の1年目として、前期までに設立された協同組合の運営を強化しました。その結果、2011年度のPICOの収入が約200万円、営業利益も約100万円となり、堅調な運営が可能となりました。今期は、これまでの母親たちに加え、多くの若者がPICOの活動に参加しました。

(3) 実施事務所

マニラ事務所

(3) 実績

1) 保健・医療サービスの提供

① 協同組合の保健活動

- 診療活動:週2回、全99回の定期診療を行いました。
- 地区巡回診療:保健研修を受けた青年たちと地域保健員(Community Health Volunteer)が、看護師とともに年2回地区を巡回し、保健教育等を行いました。

② 保健研修

14歳から32歳までの青年たちとともに保健研修を行いました。全17回の研修に延べ245名が参加しました。

③ ユースヘルスアドボケイツによる保健教育

地域保健員の研修を受けた青年たちが、地域の子どもたちへ保健教育を1回行い、7名の青年たちが、14名の参加者に基礎的な保健の知識を伝えました。

2) 協同組合PICOの運営強化

① 基盤強化研修

PICOの組合員延べ226名とともに、全13回の組織運営研修、2回の外部協同組合の視察を行いました。

② 組織運営の強化

- PICOの役員主導のもと、組合定例会議と役員会議が毎月継続的に開催されています。(各全12回)
- 財務報告書の作成、会計系の育成を行いました。
- 協同組合活性化のために、組合員の勧誘を積極的に行いました。4月時点で組合員数は385名です。

③ その他の協同組合の活動

- 預かり保育教育:週5日、12名から15名の未就学児を対象に214回の預かり保育を実施しました。
- 青少年活動:毎週土曜日に4歳から15歳の子どもたち約20～25名とともに青少年活動を実施しました。

3) 生計向上事業

① 職業訓練校への通学補助

全59名が美容、IT技術等、全11のコースに入学しました。今期末の時点で46名が卒業しました。

② 就職活動補助・起業補助

職業訓練コース終了後、26名が就職しました。

(5) 新年度の展望

2年計画の最終年度として、PICOの健全な運営を更に強化し、住民による持続的な運営体制を目指します。

事業費 16,121,551円



事業費 8,824,322円

F、災害の影響を受けた子どもたち(2006年～)
～東日本大震災緊急救援・復興活動～(2011年～)

(1) 事業背景

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、未曾有の被災者を生みました。宮城県東松島市は本震災によって、町の全世帯の約45%である6,758世帯が水没し、死者・行方不明者は町の全人口の2.8%にあたる1,231名以上に及びました。

(2) 特記事項

6月より職員が東松島市に常駐し、災害ボランティアセンター(後の災害復興サポートセンター)の一員として、救援物資の提供、復興を促進する活動を行ってきました。

(3) 実施事務所

日本事務局、宮城出張所

(4) 実績

1) 東松島市災害ボランティアセンターと協力した活動

① ボランティアコーディネート業務

延べ47,469名のボランティア、特殊技術を持つ350名の専門家、4,528件のニーズに対応しました。

2) 東松島市生活復興支援センターと協力した活動

① 花植サロンの実施

仮設住宅入居者同士のつながりのきっかけ作りを目的に、隣近所の入居者と一緒にプランターに花植えをするイベントを、東松島市内延べ1,753戸の仮設住宅において実施しました。

② お茶会の実施

仮設住宅入居者同士の交流を深めることを目的に、東松島市内延べ2,509戸の仮設住宅において実施しました。

3) 東松島復興協議会と協力した活動

※復興協議会：市内で活動するNPOのネットワーク組織

① 設立にかかわる業務

東松島市内で活動する民間団体連絡会の必要性が挙がり、幹事団体の一員として9月に設立しました。

② 宮城県支援物資の代表窓口担当業務

東松島復興協議会の場において、宮城県が集約している物資リストの共有や申請の窓口を担当しました。

③ 在宅被災者を対象とした業務

牛網地区(約500世帯)の在宅被災者を対象に、電気毛布500枚、ホットカーペット35枚を提供しました。

4) 青少年を対象とした活動

① 青少年の教育の向上に関わる業務

石巻市石巻・蛇田地区の子どものレクリエーション活動に文具・レクリエーション品(200名分)を提供、東松島市図書館への絵本200冊・移動図書館向け書籍100冊の提供、東松島市図書館の読書推進活動用インク、空気清浄器、東松島市立小中学校への備品の提供(ワークブック346冊、扇風機20台、椅子200脚、暖房器具等)、東松島市学童クラブへの子ども向けレクリエーション用品(200名分)、幼稚園用おもちゃ他、多くの教育備品を提供。その他に全壊し移転した幼稚園等の看板設置作業、園芸による子どもの精神的ケア活動を実施しました。

(5) 新年度の展望

被災した子どもたちの「参加」を促進し、まちづくりに子どもの視点を提供するとともに、被災した子どもたちの間の「コミュニティ形成」を目的に、「10年後の僕たち、私たちの東松島」と題した絵画大会や子どもたちによる地域の新聞作り等を実施します。



～フィリピン台風21号(センドン)被災者緊急救援～
(2011年～)

(1) 事業背景

2011年12月16日の夜から17日未明にかけてフィリピンミンダナオ島北部に上陸した台風21号(フィリピン名:センドン)は、ミンダナオ島の5州とネグロス島やセブ島、ボホール島の計32都市を襲い、その被害は、死者・行方不明者数約2,500名、被災者数60万人以上に及びました。特にミンダナオ島北部のカガヤンデオロ市及びイリガン市の被害は深刻で、17日朝までの12時間に、1ヶ月間の平均降水量に匹敵する180ミリの雨が降り、洪水、鉄砲水、地滑りが発生、甚大な被害となりました。

(2) 特記事項

日頃のネットワークやリソースをいかし、医師や看護師、ソーシャルワーカーたちの医療チームを被災直後に被災地に送り、現地の緊急医療ニーズに応えることができました。

(3) 実施事務所

マニラ事務所、ミンダナオ第2事務所(コタバト市)

(4) 実績

1) カガヤンデオロにおける被災者救援物資配布

災害発生直後、コタバト市にあるミンダナオ第2事務所より6人のスタッフが現地入りし、被災者のネットワークを持つ現地のNGO(パンダイブリッグ)と協力して毛布や食器(皿、スプーン、フォーク)等の救援物資の配布を1,000家族に対して行いました。

2) カガヤンデオロにおける被災者救援医療活動

マニラから医師1人、看護師2人、ソーシャルワーカー等スタッフ2人が現地入りし、被災地域で医療活動を行っているNGO、CBHS(Community Based Health Service)とともに、十分な医療サービスを受けていない被災者たちを対象に診療活動を行いました。無料の医療サービスを提供するはずの公的医療機関に十分な医薬品・医療器具がないために、大水により流されたときに負った傷の治療に、十分対応できてないケースが見られ、また、家族を亡くした心の傷もいまだに生々しく残っていました。

3) 復興活動に向けての調査及び計画策定

震災発生から3か月後の3月に、スタッフ2人が被災状況の調査と今後の復興促進活動の計画策定を行いました。

(5) 新年度の展望

被災地の被災者住民組織(survivors collectives)を組織化し、被災者たちが自ら保健の知識を獲得し、そしてそれを生かして地域の健康状態を向上できるよう、保健教育と医療器具・医薬品提供を行います。また本事業を効率的に実施するにあたり、カガヤンデオロ市内に事務所を開設し、専属常駐スタッフを配置します。



G、外国にルーツを持つ子どもたち(2009年～)

(1) 事業背景

愛知県内の外国人登録者数は全国で3位と、多くの外国人の方が住んでいます。また、それに加え、登録していない、日本国籍を持ちつつも日本以外にルーツを持つ子どもたちはその何倍とも言われています。外国にルーツを持つ子どもたちの多くは、小学校高学年から中学校にかけて本人の日本語力と学業上必要な日本語力の間に顕著な差ができてはじめて、これが「学力」として現れます。この結果、子どもたちの中には進学を諦めざるを得ず、複合結果として、母親を見下し、責めることにより家庭の崩壊が起こったり、子どものアイデンティティ障害を発生させるケースも多くなります。

アイキャンは現在までに培ってきた経験を活かし、外国にルーツを持つ子どもたちの教育環境を向上させ、家族の地域社会への参加を促すために、翻訳サービスや勉強会等を実施してきました。

(2) 特記事項

前期では、翻訳ボランティアをコーディネートする翻訳コーディネーターは職員が担っていたのですが、今期から3名の社会人ボランティアが翻訳コーディネーターを担うことになり、より持続的な運営に近づきました。また、翻訳ボランティア募集のチラシを、全国の国際交流協会や自治体、教育機関、NPO等840ヶ所に配布した結果、翻訳ボランティアを増加させることができました。

(3) 実施事務所

日本事務局

(4) 実績

1) 調査や提言、啓発活動

多文化共生におけるアイキャンの活動や外国にルーツを持つ子どもたちが置かれている状況をまとめ、製本して啓発活動を行いました。また、在日外国人への理解を促進するために、「日本文化にカルチャーショック」と題した以下の4つの勉強会を実施しました。

- －「～フィリピンから来てみて～」(12月10日開催)
- －「～ベトナムから来てみて～」(2月18日開催)
- －「～インドから来てみて～」(3月3日開催)
- －「～エチオピアから来てみて～」(3月10日開催)

2) 教育促進活動

173名のボランティア(内17名が外国人)により、22件の翻訳作業を行いました。内容は、学校関係者からの学年だより、暴風警報発令時の対応について、通知表、児童実態調査票、役所からの児童手当申請書、保育園入園のご案内、ゴミのマナー等の依頼でした。また、全国の国際交流協会や教育機関など約840ヶ所に、翻訳依頼や翻訳ボランティアの募集チラシを送付し、広報活動を行いました。

(5) 新年度の展望

より多くの外国にルーツを持つ人々がこのサービスを利用できるよう広報活動を継続します。また、勉強会を引き続き開催し、活動に関わる人たちの意識向上につなげるとともに、ボランティアによる持続的な勉強会運営システムを構築し、多文化共生社会の担い手を育成します。



H、子どもの参加を促進する事業(2007年～)

(1) 事業背景

「危機的状況にある子どもたち」の社会参加を促進するために、各事業地で子どもたちのイニシアティブをもった活動を進め、また、その子どもたちが集まって、自分たちの現状を共有し、自らの「できること」を考えて行動計画を作成する「子ども議会」を実施しています。今年度も、前年の子ども議会で作成した行動計画を実行しました。

(2) 特記事項

多くの人に子ども議会に出てきた「子どもの声」を届けるために、議会の記録を英語と日本語の冊子にまとめました。

(3) 実施事務所

マニラ事務所、ミンダナオ第1・第2事務所(ジェネラルサントス市、コタバト市)

(4) 実績

1) 行動計画の実行

前期の子ども議会で計画された「できること」を、各地域で実行に移しました。

－ジェネラルサントスの子どもたち

子ども議会の参加者をはじめとした奨学生たち約20名が、経済的に困窮している地域の子どもの約50名に、読み聞かせと炊き出しを行いました。

－紛争の影響を受けた子どもたち

前回の子ども議会に参加した2名の子どもが、地域のリーダーたちの会議で、平和な地域の重要性を訴えました。

－路上の子どもたち

路上の子どもたち約40名が、2地域にて清掃活動を行いました。

－先住民族ブラアンの子どもたち

子ども議会参加者を含むブラアンの子どもたち約15名が、地域の清掃活動を行いました。その後、40名の子どもたちのための炊き出しも行いました。

－パヤタスごみ処分場周辺の子どもたち

毎週土曜日、議会参加者3名をはじめとするパヤタスの子どもたちが、約30名の子どもたちに基本的な読み書き算数を通年で教えました。また、約50名の子どもたちにお粥を提供しました。

－身体的障がいを持つ子どもたち

身体的障がいを持っている子どもについての理解促進を目的として、パヤタスで子どもたちの交流を行いました。

2) 「子ども議会'11」の開催(10月)

ジェネラルサントスの子ども3名、紛争地の子ども3名、路上の子ども4名、ブラアン族の子ども3名、ごみ処分場周辺に住む子ども3名、身体的障がいを持つ子どもたち3名、日比国際児3名計22名が参加する「子ども議会」を、ブラカン州にて開催しました。互いの経験から学び、自分たちにできることを計画しました。

3) 報告書の作成

子ども議会の様子をまとめた冊子を日本語と英語で作成しました。

(5) 新年度の展望

子どもたちの各地域の活動の活性化に注力します。子どもたちが互いの活動から学びあえるように、ニュースレターを作成します。

2、「できること」を増やすプログラム



事業費 1,805,118円

A、国際理解教育(開発教育)事業(1994年～)

(1) 事業背景

幅広い事業を行うアイキャンの特性を活かし、日本に住む人々とフィリピンに住む人々の経験をお互いに共有することによって、国際理解を進めています。社会の中で弱い立場におかれた人々の「現実」に基づいて社会問題を理解し、「自分の問題」として「ともに」解決に向けて様々な立場で主体的に取り組める人材の育成に取り組んでいます。

(2) 特記事項

高校生や大学生を対象としたフィリピンでの研修を数多く実施し、社会の課題解決に行動する若者を増やすことができました。

(3) 実施事務所

日本事務局、マニラ事務所、ミンダナオ第1・第2事務所(ジェネラルサントス市、コタバト市)

(4) 実績

1) 授業・講義 8件

きふね幼稚園、岐阜県立羽鳥高等学校、金城学院中学校、聖霊中学高等学校、津島市立西小学校、名古屋経済大学高蔵高等学校・中学校、四日市市立羽津中学校、仙台白百合女子大、

2) 開発教育講座やイベント等実施・参加 9件

ー自主企画:マニラスタッフ野村・浅倉帰国報告会、マニラスタッフ清水帰国報告会

ーイベント参加:NGOキャリアセミナー、北名古屋市多文化共生社会づくり講座、岐阜ラジオ、国際協力カレッ

ジ2011 紛争地で活動する人々 第3回フィールドワーク、JSTラジオ、natural cafe Bou、りぶらまつり

3) 事務所訪問受け入れ 6件

愛知教育大学、成城大学サークル、聖霊中学高等学校、中京大学環境サークルNEO、中京大学平和論ゼミ、金城学院中学校

4) 絵手紙大会(トゥライプロジェクト)

愛知県内の小・中・高校生約620名とフィリピンの子どもたち約560名が「私の周りにある外国から来たもの」をテーマに、絵手紙で交流を行いました。子どもたちの絵手紙は、1月19日～1月22日の間、名古屋市緑区にあるイオン大高ショッピングセンターで展示され、その後はフィリピンの7ヶ所の学校や地域において展示されました。

また、先住民族ブラアンの子どもたちと静岡家浜松市の障がいを持った子どもたちによる絵画展を開催し、うち6点が浜松市長賞などの表彰を受けました。

5) 国際理解海外研修・事業地訪問等 12件

青山学院大学、広島大学、拓殖大学、中央大学、神戸女学院大学、名古屋国際中学校・高等学校、一般財団法人日本公衆衛生協会、金沢大学医学部医療系サークルKURE、北海道大学国際協力学生団体結～yui、国際ボランティアグループ杉山、トヨタ自動車株式会社

(5) 新年度の展望

愛知県内の学校とのつながりをさらに増やし、地域での国際理解を促進していきます。また、絵手紙大会(トゥライプロジェクト)では、事業の計画段階から教員の方々と協力し、参加型の事業運営を行います。



事業費 132,680円

B、語学教室事業(スマイルチケット)(2011年～)

(1) 事業背景

インターネットが発達し、世界の情報が日々目に入る時代になるとともに、インターネットにアクセスできる世界中の人と交流が容易にできる時代となりました。社会問題の解決に向けて活動している世界中の人たちと、行動を共にするために、語学力は最も必要なコミュニケーション手段の1つとなっています。しかし日本では、一般的に外国語の語学力は低く、これが地球的規模での連帯を阻害している面がありました。

(2) 特記事項

今期、国際ニュースや社会問題の理解促進と一般市民の語学力を向上させることを目的に、英語とフィリピン語の語学教室(SMILE Ticket)を開校しました。日本で暮らすフィリピンの方を講師として招くことで、受講生にアイキャンの活動地であるフィリピンについてより身近に感じていただくことができました。

(3) 実施事務所

日本事務局

(4) 実績

1) 語学教室(SMILE Ticket)の開催

名古屋市内の語学教室の市場調査や講師募集、チラシの作成と配布、HPの作成、広報活動を実施し、1月に語学教室(SMILE Ticket)を開校させました。

① 英会話

以下の3つの英会話クラス、全48回のレッスンを行いました。

—「ゼロから始める英会話」

初心者を対象とした簡単な日常英会話を学ぶクラス。

—「趣味の英会話」

中級者を対象とした、日常生活や海外旅行等の場面で必要な英会話を学ぶクラス。

—「海外ニュースの英会話」

上級者を対象とした、ニュース等の記事の理解に必要な英会話を学ぶクラス。

1回のレッスンは1時間、2～5名の少人数制とし、経験豊富なフィリピン人とアメリカ人の講師が行いました。生徒数は13名で、年齢層は20代～40代です。

② フィリピン語

3月からはフィリピン語教室を開校し、生徒数7名で全15回のレッスンを以下1つのクラスで実施しました。

—「ゼロから始めるフィリピン語」

初心者を対象とした簡単な挨拶や単語、数字等を歌やゲームを交えながら学ぶクラスです。こちらの生徒の年齢層は、20代～50代です。講師は英語も教えているフィリピン人です。

2) イベントの実施

次期に語学と組み合わせた自主企画イベントを実施すべく、準備を行いました。

(5) 新年度の展望

一般市民の方が通いやすい教室づくりと広報活動を強化し、生徒数と授業数を増やします。また、授業を通して、教室に通う生徒の社会問題への理解をより促進するために、多文化共生の活動やスタディツアー等との連携を目指します。



事業費 724,118円

C、スタディツアー・研修事業(2000年～)

(1) 事業背景

世界には「南」の国と「北」の国との間に大きな経済格差が存在しています。その解決に多くの国や諸機関が取り組んでいますが、この格差は広がる一方で、解決に向けてより多くの人々のコミットメントが求められています。アイキャンでは、フィリピンの現状を一人でも多くの日本人に伝え、同時にアイキャンの活動を広く知ってもらうことを目的として、スタディツアーを行っています。

(2) 特記事項

今期、8・9月に3回、12月に1回、2月・3月に2回、マニラの各事業地から学ぶツアーを開催しました。日本事務局で活動しているボランティアの多くが参加し、またスタディツアーをきっかけとしてボランティアが増加しました。日本の活動とフィリピンの活動の連携を強めることができました。

(3) 実施体制

日本事務局、マニラ事務所

(4) 実績

1) 概要

実施時期と回数：8月、9月、12月、2月、3月、計6回の実施。

基本的内容：4泊5日

1日目：集合、オリエンテーション等

2日目：ごみ処分場の子どもたちとの交流

3日目：路上の子どもたちとの交流

4日目：子どもたちとの遠足、買い物等

5日目：解散

2) 詳細

ー8月・9月(夏プランA・B・C)

参加者：A-7名、B-10名、C-8名

実施期間：

・A：2011年8月3日から8月7日(4泊5日)

・B：2011年8月17日から8月21日(4泊5日)

・C：2011年8月31日から9月4日(4泊5日)

ー12月(冬プラン)

参加者：3名

実施期間：

・2011年12月7日から12月11日(4泊5日)

ー2月・3月(春プランA・B)

参加者：A-3名、B-7名

実施期間：

・A：-2012年2月29日から3月4日(4泊5日)

・B：2012年3月14日から3月18日(4泊5日)

3) 帰国報告会の開催(10月11日、15日)

10月11日に中京大学にてスタディツアーに興味関心がある学生に向けた報告会を、また10月15日には夏プランA・B・C参加者の合同帰国報告会を開催しました。参加者は「できること」の一環として、報告会参加者にフィリピンの現状や、ツアーで体験したことを伝えました。

(5) 新年度の展望

引き続き同様のツアーを行います。スタディツアーをきっかけとしたともによりよい社会創りを担う人材を育成します。募集方法を工夫し、参加者の増加を目指します。



事業費 1,863,571円

D、フェアトレード販売事業(2000年～)

(1) 事業背景

パヤタスごみ処分場での生計向上事業から2005年に独立した女性フェアトレード団体(SPNP:パヤタスの生計向上のためにがんばる母親達)をはじめとする生産者団体の運営を支え、生産者のエンパワメントと収入向上を目的として、フェアトレード事業を実施しました。

(2) 特記事項

日本とフィリピン両国において、フェアトレード業務のマニュアル化を進め、ボランティア・インターンによる業務体制に移行しました。これにより、事業の経営状態を改善いたしました。

(3) 実施事務所

日本事務局、マニラ事務所

(4) 実績

日本とフィリピンでのイベント、学園祭、事務所、店舗等を通じて商品を販売し、多くの人々に社会問題の深刻さやフェアトレードの必要性、そしてアイキャンの理念や活動を知って頂く機会を提供できました。

1) SPNPの団体運営コンサルティング

マーケティングや価格設定など、運営上重要な相談にのり、組織体制を強化しました。

2) 新商品の開発と仕入れ

SPP株式会社や株式会社ブルーオーシャン、MODECO等の企業と連携し、あみぐるみの新商品、カーテンの廃材を使用したぬいぐるみ等を開発しました。また、注文に従ってSPNPや他団体の商品を仕入れました。

3) 販売

① イベント等での販売先(委託含む)

世界フェアトレードデイ名古屋2011、たがたの森クラフトショップ、つながるいのちの映画祭2011、名大祭、名古屋国際高等学校文化祭、グローバルフェスタ2011、名古屋YWCA秋バザー、愛知工業大学学園祭、AHIオープンハウス、白鳥庭園名古屋まつり、ワールド・コロボ・フェスタ、愛知大学、りぶらまつり2011、ふれあいフェスタ2011、メッセなごや2011、東海フェアトレードキャラバン岐阜・愛知・三重・長野・静岡・名古屋、ワンワールドフェスティバル、2012東別院御坊桜まつり、たがたの森クラフトショップ、箕面手作り市、JICA大阪まつり、箕面多民族フェスタ、MJS祭、ソルトバザー、織物バザー、AWCPバザー、CFFスタディツアー、ハンディクラフトバザー、日本人会盆踊り大会、飛鳥クルーズお土産バザー

② 委託店20店舗

よしやま、ドリーム、マジックマーマ、にんじんCLUB、マリット、株式会社ブルーオーシャン、風"s、Ethical Planet、カフェアイリス、子どもと女性のイスラームの会CWIA、ぎたんじやり、名古屋YWCA、バオバブ、まなかまな、フェアビーンズ、Café Marronnier、千くさ、ネイチャーガーデン、ブラジル友の会

4) 啓蒙活動

マニラでのフェアトレード担当インターン、日本での販売ボランティア、購入者に対して、社会問題を身近に感じていただく機会を提供しました。

(5) 新年度の展望

引き続き、当事業の財政状況の改善を図るとともに、中期計画の策定を行います。



事業費 1,598,388円

E、フェアトレード啓発事業(2009年～)

(1) 事業背景

「お買い物」を通じて、平和な社会の構築を目指すフェアトレード(公正な貿易)運動の広がりは依然として限られています。関心があってもどこで商品が購入できるのか分からないため「お買い物」という「できること」に参加できていないのが現状です。そこで、地域のフェアトレード関係者や有志が一丸となって、東海地域のフェアトレードを取り巻く環境を変えていけるよう、東海フェアトレードマップの発行や、東海フェアトレードフォーラム、東海フェアトレードキャラバンを開催しています。

(2) 特記事項

フェアトレード生産団体SPNPのBEBENA D. CARDAMA氏を日本に招へいし、キャラバンやフォーラムの参加者が生産者と直接交流できる機会を作ったことで、フェアトレードの効果についての理解が深まりました。同時に「東海フェアトレードキャラバン2011」が東海地域各地のメディアに取り上げられたことにより、「フェアトレード」自体の認知度を高めることができました。

(3) 実施事務所

日本事務局

(4) 実績

1) 「東海フェアトレードフォーラム2011」の開催(11月)

東海地域のフェアトレード関係者(NGO、企業、ショップ、学生等)とフェアトレードに関心を持つ市民約80名が一堂に集まる「東海フェアトレードフォーラム2011」を開催しました。エシカルジュエリーを扱うHASUNAの代表取締役白木夏子氏とフェアトレード生産団体SPNPの元代表BEBE

NA D. CARDAMA氏、国際理解教育センターNIED代表の伊沢令子氏を招待し、フェアトレードの価値を社会に伝えていくために必要なことを、消費者、生産者の視点から学び、具体的なアクションプランを作成しました。

2) 「東海フェアトレードポータルサイト」の作成

東海地域のフェアトレードのイベント最新情報や東海5県にあるショップの一覧や地図、フェアトレード実践者のインタビュー等を掲載したポータルサイトを作成しました。

3) 「東海フェアトレードマップ2011」の発行(10月)

東海地域(愛知・岐阜・三重・静岡・長野)でフェアトレードを取り扱う計123の店舗・団体を地域別に紹介した「東海フェアトレードマップ2011」を2万枚作成しました。これにより、地域のフェアトレードショップへ足を運んでもらえるきっかけを作ることができました。

4) 「東海フェアトレードキャラバン2011」の開催(11月)

東海5県(愛知・岐阜・三重・静岡・長野)の計6か所をフェアトレード生産者BEBENA D. CARDAMA氏とともに巡りました。参加者計107名に対し、生産者の視点からフェアトレードに携わることの意義を講演形式で伝えました。同時に各地域のフェアトレードショップを紹介することで、地域のフェアトレードショップの認知度も向上させました。

(5) 新年度の展望

次期も継続して、フェアトレード生産者を日本に招待し、フェアトレードフォーラムやキャラバンを開催するとともに、中期計画の策定を行います。



事業費 5, 142, 276円

事業費 2, 298, 224円

F、NGO相談員事業(外務省委託)(2010年～)

(1) 事業背景

日本のNGOの組織強化や専門性の向上を通して、日本のNGOの事業実施能力を高めると同時に、事業実施面における政府とNGOの連携促進を目的として、アイキャンは北陸・東海の9県を担当する「NGO相談員」として相談業務や講演を行う「出張サービス」を行っています。

(2) 特記事項

名古屋において「第二回NGO相談員全国会議」を開催するにあたり、他中部2団体とともにホストを務めました。

(3) 実施事務所

日本事務局

(4) 実績

1) 相談業務 計1, 217件

5月48件、6月100件、7月95件、8月98件、9月102件、10月144件、11月116件、12月105件、1月103件、2月92件、3月101件、4月113件

2) 出張業務 計8件

10月グローバルフェスタ(東京)、10月JICAシニアボランティア説明会(石川)、10月JICA青年海外協力隊説明会(石川・静岡・富山)、10月ワールドコラボフェスタ(愛知)、12月国際協力カレッジ(愛知)、2月ワールドフェスティバル(大阪)

3) 全国相談員会議の出席と開催 計2回

7月(東京)の会議への参加と12月(愛知)の会議の開催を行いました。

(5) 新年度の展望

相談を受ける体制の強化を行います。

G、NGOインターンプログラム(外務省委託)(2010年～)

(1) 事業背景

NGOインターンプログラムとは、将来、NGO等での就業を目指す人材の育成を外務省がNGOに委託することで、NGO人材の拡充を目的とした制度です。アイキャンは外務省委託団体として昨年に続きインターン1名を受入れ、フィリピン事業地でプロジェクトマネージャー育成を行いました。

(2) 特記事項

フィリピンの事業地での実務経験に重点を置きました。

(3) 実施事務所

マニラ事務所、日本事務局

(4) 実績

1) マニラ事務所で計192日間の研修

2) 日本事務局で計27日間の研修

3) インターン業務内容

マニラでは、パヤタスごみ処分場周辺地区での活動補佐、会計業務、訪問者対応等を行いました。日本ではフェアトレードキャラバンで講師補佐と通訳を行いました。

4) 習得した知識、能力、経験

フィリピンでの開発事業従事経験、開発事業知識、会計資料作成、NGOの資金運営、マニラ事業地訪問対応、日本人学生ボランティア育成、危機管理、異文化理解等

5) 報告会

3月16日、東京の広尾にて活動報告を行いました。

(5) 新年度の展望

研修を終えた研修生1名が、アイキャンマニラ事務所の職員として勤務します。来季、外務省の委託事業ではありませんが、引き続き、インターンの育成受け入れます。



「ICAN(私のできること)」を増やす活動全般

(1) 背景

世界規模の課題を解決するには、市民1人1人の行動が必要です。アイキャンは、「ともに」頑張る仲間を増やし、社会の中で「できること」を増やすため、課題解決に向けて取り組みやすい身近な方法を提案しています。

(2) 全国での活動

2009年に作成した書き損じハガキ回収箱1,000個の設置が全て完了し、新たに1,000個増産しました。これにより一層、企業・団体・個人との繋がりを増やすことができました。その結果、23,346枚のハガキと未使用切手・テレホンカード・商品券・外国紙幣等を収集できました。また古本・CD・DVDは約1,900点を集めることができ、この結果、子どもの教育寄付を合計約120万円分集めることができました。

(3) 名古屋での活動

1) 街頭募金

毎回10名前後のボランティアが、年7回名古屋市内の大通りにて、東北震災支援金やフィリピンでの活動資金を集めるための街頭募金を行いました。1年間で約12万5千円集めることができました。

2) 交流会・勉強会の開催

ボランティアグループの交流会・勉強会を年10回開催しました。現地活動報告会やボランティア活動、イベント企画打合せ等を行い、参加者は約85名でした。

3) 「はじめまして！アイキャン」の開催

アイキャンとともに活動するメンバーを増やすために、ボランティアグループによる企画・主催のもと6月11日に

事業説明会、ワークショップとボランティア体験を開催し、9名が参加しました。

4) チャリティーイベントの開催

6月26日に名古屋市内にてボランティアメンバーの主催でチャリティーフットサル大会を開催しました。20名が参加し、フィリピンでの活動費として約7万円を集めることができました。

(4) 東京での活動

10月1日・2日に東京で開催された「グローバルフェスタ2011」に出店しました。東海、関東地域で活動するボランティア16名が中心となり商品の販売・アイキャンの活動説明を行いました。

(5) 大阪での活動

大阪のボランティアグループが、書き損じハガキ収集やフェアトレードショップの営業、イベントコーディネート等を行いました。また、2月4日・5日に大阪で開催された「ワンワールドフェスティバル2011」に出店し、大阪ボランティアグループが中心となり、販売を担いました。

(6) マニラでの活動

マニラ事務所では、インターン1名、ボランティア2名がフェアトレードの主担当として日本と現地をつなぐ調整業務や商品の発送業務、また事務作業の補助、販売業務等を行いました。

(7) 新年度の展望

引き続き、各地での活動を活性化させるとともに、新しい場所へも活動を広げます。また、教育機関、企業、公的機関等の団体と協働し、新しい「できること」を提供していきます。

その他の活動に係る事業

本年度の実施はありませんでした。